

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 8月 21日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0170101117		
法人名	株式会社 二幸		
事業所名	グループホームひまわりⅡ		
所在地	札幌市中央区南29条西10丁目7番1号 (電話) 011-520-6338		
評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成20年6月20日	評価確定日	平成20年8月21日

## 【情報提供票より】 (平成20年5月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16年 6月 4日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 6人, 非常勤 2人, 常勤換算	7.3人

### (2) 建物概要

建物構造	木・鉄筋コンクリート 造り		
	3階建ての 1～3階部分		

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000～38,000 円	その他の経費(月額)	20,000～25,000 円
敷金	有 ( 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 ( 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	月額 36,000円 または1日当たり 1,200円		

### (4) 利用者の概要 (5月1日現在)

利用者人数	9名	男性	3名	女性	6名
要介護1	5名	要介護2	2名		
要介護3	2名	要介護4	0名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 76.5歳	最低	70歳	最高	82歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団林下病院・橋本歯科医院
---------	-------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、心身機能の維持向上を図る行き届いたケアサービスを提供するとともに、家族関係の再構築といった環境調整にも取り組みながら、利用者の充実した暮らしを支援している。家庭的な雰囲気のもと、職員が一丸となって、利用者それぞれが役割や生きがいを持てる暮らしの実現に取り組んでおり、職員と利用者の信頼関係は厚い。また、協力医療機関の主治医と訪問看護による連携体制は、日常生活を健康面からバックアップし、安心した地域生活の継続を支えている。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況 (関連項目: 外部4)
	前回評価での改善点を踏まえ、地域密着型理念の構築・運営推進会議の記録の整備など、具体的な改善策を講じている。地域住民との交流については、改善に向けた取り組みを継続している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)
	自己評価は、全職員の意見を反映しながら取り組み、日ごろのケア実践を振り返る機会として活用している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)
	会議では事業所が一方的に活動報告をするだけでなく、運営に関する意見交換をしている。外部評価の結果や改善課題についても提案や意見を出し、改善策として活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)
	重要事項説明書に事業所の苦情担当窓口を明示するとともに、公的窓口も紹介している。家族訪問時や運営推進会議の際には、意見や要望を表明できるように働きかけている。
重点項目④	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
	町内会に加入し、今年度は班長として地域の役割を担いながら事業所への理解推進に努めている。しかし、参加可能な町内会の活動が少ないため、地元住民との活発な交流が図られるまでには至っていない。今後は事業所行事への招待など、事業所側から地域へ積極的に働きかけるなど、活発な地域交流や連携の実現が期待される。

## 2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員全員で相談し、事業所独自の理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は理念カードを携帯し、互いに確認し合いながら日々のケアに取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、今年度は班長として地域の役割を担いながら、事業所への理解推進に努めている。しかし、参加可能な町内会の活動が少ないため、地元住民との交流を図るまでには至っていない。	○	今後は、地域住民が参加可能な行事を事業所が企画するなどして、活発な交流の実現を期待する。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、全職員の意見を反映しながら取り組み、日ごろのケア実践を振り返る機会としている。また、外部評価の結果を踏まえ、具体的な改善策を講じてケアサービスの向上に活かしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の活動報告をするだけでなく、参加委員との活発な意見交換をしている。また、外部評価の結果に関する討議をし、参考になる改善案を得ている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の管理者連絡会議に参加しているが、事業所の運営実態や現場の実情を市町村担当者と共有するまでには至っていない。	○	市町村担当者に積極的に働きかけ、現場の実情を伝える機会を設けるなどして、サービスの質の向上に向けた協働体制構築への取り組みが期待される。
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月発行のたよりには、写真や個別コメントを添えて利用者個々の日ごろの様子を伝えている。金銭管理の状況は3ヶ月毎に詳細な報告を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情担当窓口を明示するとともに、公的窓口も紹介している。家族訪問時や運営推進会議の際には、意見や要望を表出できるように働きかけている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、馴染みの関係による利用者支援の重要性を認識しており、新規職員採用時には、利用者との関係づくりの期間を設けてスムーズな職員交代に努め、ダメージを防ぐ配慮をしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は職員の研修機会を確保し、段階的な育成に努めている。研修後は伝達講習を行い、研修内容を共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、市のグループホーム管理者連絡会議に参加し、同業者との交流を図っている。	○	今後は、他事業所との相互訪問等、職員が同業者と交流する機会を設け、サービスの質の向上に取り組む予定であり、更なる取り組みに期待する。
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に数度見学してもらい、事業所の雰囲気や職員に馴染む機会を設けている。その際には、十分な面談を通して本人や家族の意向や不安を受けとめ、納得した入居に繋げるよう配慮している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者の喜びや不安を分かち合い、「家族」のように共に支え合って過ごす関係を築くよう努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、日ごろから利用者の思いや要望の把握に努め、その人らしい暮らしを実現できるよう支援している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護支援専門員や、本人・家族と話し合い、意見やアイデアを反映した、利用者本位の介護計画を個別に作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとに定期的な見直しを行うとともに、状況変化に応じ見直し、現状に即した介護計画の作成と実施を図っている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かして、看護師による日常の健康管理を行っている。また、必要に応じて通院や墓参等に同行するなど、柔軟な支援を展開している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の希望するかかりつけ医への定期受診及び月2回の訪問看護により、適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期における看取り介護の同意書を本人・家族と交わすとともに、医療機関との連携や事業所のできるケアについて話し合い、全員で方針を共有している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの性格に配慮した働きかけを行い、誇りやプライバシーの尊重に努めている。職員同士が点検し合い、利用者の尊厳を守るための態度の徹底を図っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は利用者一人ひとりのペースや希望を優先し、個々の力量を発揮しながら生きがいや喜びのある暮らしを実現できるように支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の意欲や力量を活かしながら、職員と利用者が協働して食事の準備や片付けを行っている。職員は和やかな食卓をともに囲みながら、食事に集中できる雰囲気づくりにも配慮している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	順番や時間帯など、利用者の希望に即した入浴支援をしている。また、希望があればその都度シャワー浴や清拭を行っている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの性格や意欲、力量に応じて、家事参加や趣味活動で力を発揮したり、楽しんだりできる場面を設け、役割や喜びのある暮らしとなるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望に応じて、散歩や買い物に出かけられるよう支援している。また、墓参や温泉等の希望にも対応している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は、日中は施錠していない。職員同士が声を掛け合い、利用者の所在や様子を把握することで安全確保に努め、鍵をかけない自由な暮らしを支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に一度、利用者と共に避難訓練を実施し、避難経路や消火器の使用方法を確認している。地域への協力要請に取り組み、徐々に理解を得ている。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	保健センターの栄養士から助言を受け、栄養バランスに留意した献立を作成するとともに、体重変動に気をつけながら、一人ひとりに応じた食事量や水分量となるように支援している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間は明るく、生活感のある家庭的な雰囲気、居心地の良い空間となるよう配慮している。また、カーテンを二重にして、適宜日射しを調節している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者の好みの家具や使い慣れたものが持ち込まれ、一人ひとりが居心地良く過ごせる場所となるよう配慮している。		

※  は、重点項目。